

陸上での運搬は、艇にとってストレスのかかる状態であり、繊細な神経で運ばなければ、剛性が低下し寿命が縮まります。

1 艇の運搬の基本

Carrying boats

艇は、上下動をできるだけ少なくし、また、まわりの人や物に当たらないよう、注意しながら声をかけながら運搬します。

つきクオドでは、短い距離であれば、各ポジションで持つのも良いのですが、新人女子など力の弱い漕手ができるだけ負担を分散しつつ、安全に運搬するためには、「艇のできるだけ両端」(例:パウはバックストップ、2番はバックストップまたはパウのフロントストップ、3番は整調のフロントストップか整調と同じ位置、整調はフロントストップか舵手のバックレストにすると良いです。艇によって多少異なりますが、できるだけ両端によって制御しやすくし、同時に前後・4人の荷重のバランスをとることが大切です。



艇の運搬は上下動を少なく丁寧に

艇を裏/表に回転させるときは、タイミングを合わせ、艇軸を常に地面に平行にします。合わせないと、艇が傾き地面に接触します。重要:ウマの上で回してはいけません!



肩に担いだ艇を差し上げ、回転しながら水面に降ろす

ダブルスカルは、艇端から約2mのあたりを持ちます。端で持ったまま長く運んではいけません。



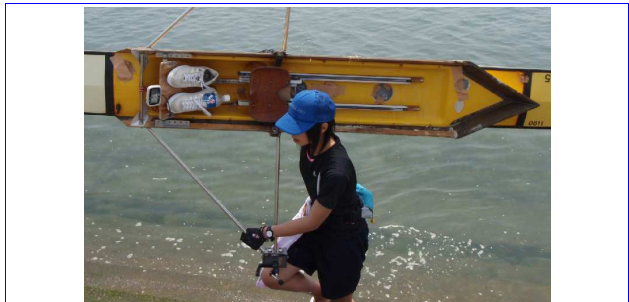
ダブルスカルは、前後デッキの中央～中寄りで持ちましょう

シングルスカルは、基本は一人で、デッキを下にシートを頭に載せるか、横にしてガンネルを肩に載せ運びます。ハルを下にする場合、細心の注意が必要で、注意しないとすぐにハルを傷めま

す。慣れないうちは、2人で両端から1m～2m内側を持つか、補助をつけて運びましょう。



シングルスカルを二人で運ぶ場合。(ハードデッキの場合は裏返して)



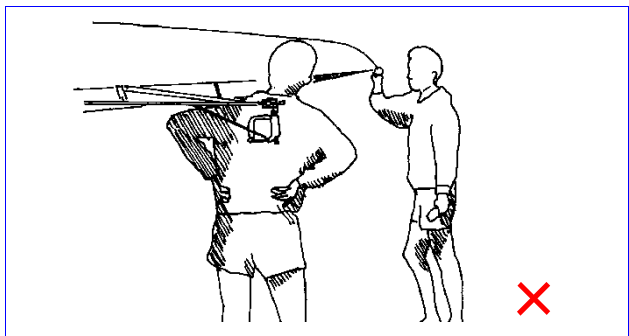
裏返して運ぶのが基本。ハルを下にして運ぶ時は極力慎重に! また基本的には、(上のように) 艇とオールは別に運ぼう。

2 舵手は艇全体を見渡せる位置で、声だけで

舵手は艇から少し離れ、常に艇全体を見ることのできる位置に立ちます。舵手や補助者がパウボールまたは艇尾を持って移動するのは、一見安全そうですが、艇のもう一端のリスクが高まり、また舵手のレベルアップの障害にもなります。舵手は、手を触れることなく、声だけで漕手を介して艇を制御します。もちろん、初心者のクルーでは、また大会会場などの混雑した状況では、サポートがあっても良いでしょう。しかし舵手自身は、最終的に、艇から離れた位置で全体を見渡しなが、クルーをしっかりコントロールできるようにするのが、重要です。



このように舵手は少し離れて全体が見渡せる位置をとる。



悪例。艇を持つのは卒業し、離れ、全体を見渡せる位置に。